

「慶寿の祝い」出演者の声

9月29日(火)、人生の節目をお祝いの「慶寿の祝い」を開催しました。今回は、参加者の皆さんを楽しませようと舞台を盛り上げた皆さんに、出演への思いや意気込みについてお話を伺いました。

設楽 早苗氏

私は、11歳から約79年間、箏・三絃の稽古を続けています。秩父地域の各小学校や、皆野町の「二十歳の集い」で長年披露してきました。

演奏を聴いた子どもたちから「尺八や三絃を演奏してみたくなった」「一生聴けないようなきれいな音だった」など、大変嬉しい感想をいただいたことが今でも心に残っています。音楽を通して、誰かの心に思いを届けることにやりがいを感じています。

今回慶寿者としても卒寿のお祝いをしていただきますが、地元の先輩や後輩の前で演奏し、皆さんに夢と希望と元気を与えられるようがんばります。



秩父音頭有志の会

私たちは故・金子千侍先生とともに、長い年月、秩父音頭の踊りの普及に務めてきました。皆野の伝統芸能を受け継ぐため、踊りの披露やお囃子の練習、秩父音頭講習会などを行なっています。

「慶寿の祝い」参加者の皆さんも、さまざまな節目に秩父音頭を楽しませてきたのではないかと思います。だからこそ、秩父音頭で元気と笑顔を届けたいと思い出演しました。どんなに多くのかたが集まっても「心一つ」になれるのが秩父音頭です。会場一体となり、皆さんに楽しんでいただければ嬉しいです。

若瑞会

私たちは、曲目に自身で考えた振付を併せて披露する新舞踊をやっています。新舞踊は喜怒哀楽を四肢五体で表現するものなので、自分の健康のためにもなりますし、見ていただく皆さんにも喜んでいただけるものです。

慶寿の祝いへは、皆さんに見ていただけるのが嬉しく出演を決めました。

ただ見ていただくだけでなく、舞台の上や座席からいっしょに手を振ったり、歌ったりと、楽しく披露できればと思います。会場の皆さんがいっしょに楽しめる空間にしたいです。



ホアロハ皆野・ レアレアフラ皆野

私たちは“元気で、笑顔で、楽しく”を合言葉に、フラの衣装を着て、大きな花飾りを付けて、日常生活を離れ楽しく踊っています。普段はフラダンスのイベントや高齢者施設に訪問して、皆さんといっしょに歌い・踊って楽しい時間を過ごしています。

慶寿のお祝いでダンスを披露することは、私たちにとっても幸せなことです。笑顔で楽しく踊りますので、皆さんでいっしょに歌い、手を動かして楽しい時間を過ごしていただけたら嬉しいです。おめでとうございます！

